

令和 6 年度 山辺里地区区長会要望事項

1 廃校及び廃園された施設の有効活用の促進について

廃校や廃園になった旧山辺里小学校、旧山田分校、旧門前谷保育園、旧門前谷小学校、旧大栗田小・中学校については、体育施設、埋蔵文化財収蔵庫及び市書類保管庫として利用されており、雑草の管理も年数回実施されているところでもあります。

このうち、旧山辺里小学校体育館（山辺里第二体育館）は、年間利用者数が 3,000 人を超える利用が図られておりますが、その他の施設については老朽化が進み、樹木も生い茂っており、市民目線からすると有効活用が図られていない状況にあります。

小学校や保育園建設当時は、地域住民や地権者の多大なるご理解とご協力を頂きながら設置された施設であり、その思いに応えるためにも、有効活用が早急に望まれるところでもあります。

このため、市民が多く利用している山辺里第二体育館については、引き続き、良好な維持管理をお願いするとともに、残る廃校及び廃園された施設については、鳥獣の住处等環境が悪化していることから、樹木の管理を徹底していただき、解体も含め有効活用策を速やかに検討くださるよう強く要望いたします。

【回答】

旧山辺里小学校校舎、旧山田分校、旧門前谷小学校校舎につきましては、現在、埋蔵文化財収蔵庫等として利用しています。旧門前谷保育園につきましては、老朽化が著しいため、昨年 10 月に収蔵文化財を他の施設に搬出しています。廃止後の施設については、適切に管理を行うとともに、解体を含め検討してまいります。

廃校を利用した体育施設については、村上市スポーツ施設整備計画に基づき、耐用年数を経過し、大規模な改修が必要となった際には、建て替えをすることなく施設を廃止し、利用調整を図っていくこととしています。

山辺里第二体育館及びその他の施設につきましてもこの計画に基づき、施設の適切な管理と良好な環境維持に努めてまいります。

（問合せ先：生涯学習課）

2 村上山辺里 I C のフル化について

日下地内の創設非農用地は、本年 7 月 29 日に事業者と包括連携協定が締結され、ようやく当該施設の活用について検討が進められることになっております。

また、本市火葬場整備構想に基づき、拠点となる火葬場の建設計画も決定したことから、広大な圏域を有する本市の交通ネットワークおよびアクセス機能の充実が重要です。

このため、日沿道全線開通前に村上山辺里 I C のフル化の必要性を国土交通省及び関係機関へ働きかけ、一日も早い改修整備を要望いたします。

【回答】

村上山辺里 IC の周辺では民間企業の進出が予定されており、宅地化も進んでいます。併せて、日沿道の延伸に伴う交通ネットワークの拡大や交流人口の増加なども期待されるため、フル IC 化の実施について検討してまいります。

（問合せ先：建設課）

3 工業団地へのアクセス道路整備について

これまで県道上山田山辺里線日下交差点の青信号の時間調整や工業団地内市道の消雪施設設置などの対策をしていただいておりますが、特に冬期間の工業団地への通勤時間帯において、県道上山田山辺里線と県道大栗田村上線は大渋滞となります。

このことは、工業団地への通勤者の負担に加え、下相川集落内の狭隘の道路を抜け道として利用する車両もあることから、地区住民や通学児童への危険度も増える結果となっております。

このため、地形的に新たなルートは難しいとのことでしたが、工業団地内企業の振興と労働力の確保及び交通安全対策のため、再度別ルート等を検討していただきたく強く要望いたします。

【回答】

「下相川集落内の狭隘の道路を抜け道として利用する車両があり、住民や通学児童が危険」とのことですので、ドライバーへ注意喚起を図る交通安全対策について、下相川区と協議してまいりたいと考えています。

アクセス道路の整備につきましては、平成 28 年度に新ルートを検討いたしました。が、工業団地内企業の事業拡張のため整備は困難な状況です。また、別ルートについても、工業団地内の土地利用や地形等の状況から困難な状況となっておりますが、引き続き検討してまいりたいと考えています。

（問合せ先：市民課、建設課）

4 市道山添線の整備について

仲間町から門前に至る市道山添線は、現在赤沢入り口までは舗装整備が完了していますが、赤沢地内及び門前地内では未整備の状況が長年続いています。この道路については豪雨災害や地震災害などにより県道大栗田村上線が寸断された場合には重要な迂回路になります。

さらに、赤沢－菅沼－袋－坪根を結ぶ本ルートについては、高齢化に対応した公共交通ネットワークや緊急車両の運行を考える点からも重要な路線であることから、市道山添線の整備と赤沢集落内迂回路（赤沢 9 号線と赤沢 17 号線）の早急な整備を強く要望します。

【回答】

市道山添線及び市道赤沢9号線、市道赤沢17号線に関するご要望の主旨と実情については十分に理解をしているところですが、現在、道路や橋梁等の老朽化対策事業を優先して進めているところであり、各種事業の進捗を勘案しながら新設改良の実施を検討してまいります

(問合せ先：建設課)

5 環境保全対策の監視強化について

令和元年度に市と畜産業者、門前谷地区7集落で公害防止協定を締結し、市の定期的な臭気測定結果により畜産業者へ指導を実施していただき、畜産業者においても悪臭対策には細かな対応を行っていただき改善が図られてきておりますが、時期によっては悪臭により不快な状況となることがあります。

また、門前川の水質汚染も懸念されていますので、悪臭と合わせ事業所の排水調査による監視等、水質汚濁防止についても、引き続き畜産業者への指導と監視を強く要望いたします。

【回答】

畜産施設からの悪臭については、年2回臭気測定を実施し、基準値を超える場合は、その都度、公害防止協定に基づき畜産業者への指導を行っています。また、例年、門前谷地区区長会の皆様と畜産業者との懇談会を実施しており、今年度も臭気対策の強化を要望したところです。適宜、懇談会を開催しながら、引き続き皆様の要望を伝える機会を設けてまいります。

河川等の水質汚濁防止については、周辺河川及び排水路の水質検査を実施していますので、県など関係機関と連携しながら監視をしてまいります。

(問合せ先：環境課)

6 河川整備について

(1) 小谷川及び山田川について

「小谷川」及び「山田川」は、線形により河床の土砂が偏って堆積し川幅が狭くなっているため、洪水時に堤防が決壊する恐れがあります。さらに、堆積物で川底が洗掘され、部分的に深くなっており、毎年行政からの依頼による除草作業に支障をきたしている箇所も多いため、河床の整備を引き続き県へ働きかけていただくよう強く要望いたします。

【回答】

県では今年度、四日市地内と上山田地内において河床掘削を実施しています。引き続き、河床整備の必要な個所について早期に対応が図られるよう、県に対して要望を行ってまいります。

(問合せ先：建設課)

(2) 門前川について

住民の安心・安全のため、堤防の危険個所の改修、洗掘防止及び河川敷の雑木除去等について近年豪雨災害が多発しておりますので、市からも早急な対策を県へ働きかけていただくよう強く要望いたします。

【回答】

県では昨年度、鑄物師地内において河床掘削を実施しています。引き続き、「門前川を守る会」とも連携し、その他の必要個所についても早期に対応が図られるよう、県に対して要望を行ってまいります。

(問合せ先：建設課)

7 全国に先駆けた有害鳥獣対策について

近年、里山の管理不全や人里への侵入経路や餌場となる河川敷の雑木(クルミ等)の放置と自然環境の変化により、サルやイノシシ等による農作物等への被害に加え、人里へのクマの出没により市民生活の安全安心に大きな影響をおよぼしております。

村上市、新潟県及び関係団体の対策に加え、新潟県猟友会村上支部のご尽力により、被害等を最小限に食い止めておりますが、今後さらなる被害や安全安心が脅かされることが懸念されるところであります。

また、行政からの補助により電気柵の設置個所も増設しつつありますが、将来において安全安心を担保できない状況が危惧されます。

このことから、産官学の連携強化により、全国に先駆けた対策(共存含む)を構築していただくとともに、殺処分後の処理についても焼却等行政において対応していただき、農作物の保護と市民生活の安寧に務めてくださるよう要望いたします。

【回答】

鳥獣害対策の新たな取組(市鳥獣害被害対策協議会モデル事業)として、サル捕獲用の「大型檻」を設置し捕獲作業を行っています。現在、検証を行い課題点など整理しているところであり、今後、市内全体に取組として拡大してまいりたいと考えております。また、産学官連携強化については、ご提案のとおり、本市と連携する大学機関と対策について研究してまいりたいと考えています。

有害鳥獣(サル、クマ、イノシシ等)の処理については、捕獲従事者によって処分することをお願い(許可)しておりますが、処理(埋設)にかかる労働力や場所の確保等の課題があります。現在、イノシシについては、市のごみ処理場での焼却対応を可能としておりますが、処理場への搬入方法などに課題がありますので、引き続き処分方法と有効利用の両面から研究を進めてまいります。

(問合せ先：農林水産課)